

学習者用デジタル教科書を活用した国語科の指導の充実

小樽市立山の手小学校 学級数 16 (校長 草島 拓也)

□ 実践の概要

本校は、「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」の指定を受け、高学年に国語科の学習者用デジタル教科書が配備されている。また、「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」の配置校でもあることから、1人1台端末を効果的に活用した授業を一層充実させるため、授業改善に取り組んでいる。

1 実践の目的

学習者用デジタル教科書を含めた1人1台端末の効果的な活用による授業改善を進め、本校の研究主題である「主体的に学びに向かう子どもの育成～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～」の実現を図る。

2 実践内容

(1) 実施計画

5月	学力向上部による示範授業
7月	全校研究授業・交流授業
10月	全校研究授業・交流授業
11月	小樽市教委主催特別研修講座(国語)
12月	公開研究会



【国語科の授業の様子】

(2) 取組の具体

全校研究授業及び交流授業では、1人1実践の公開を行い、明らかとなった成果と課題を踏まえて日常の授業改善につなげた。特別研修講座では、淑徳大学教授青山由紀氏を招いた授業公開を行い、国語科における授業づくりについて研鑽を深めた。第5学年の国語科では、資料を活用しながら説明を進めることの意味や効果を理解し、説得力ある文章を書く力を高めるために、学習者用デジタル教科書のスタンプ機能を活用して、どの段落とどの資料が結び付いているのか等、自分の考えを伝え合う場面を設定した。また、付箋機能を活用して、筆者の考えを主張する上でどの資料が一番重要になるかを考えて入力したものを基に、グループでの対話活動を行い、自身の考えを深められるようにした。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

学習者用デジタル教科書の「線を引く」「枠で囲む」「スタンプを押す」「付箋を貼る」等の機能を目的に応じて活用したことにより、教科書に記入した自身の考えを基に児童同士で意見交換したり、再思考したことをまとめ直したりするなど、言葉による「見方・考え方」を働かせながら教材に向き合う姿が見られた。

一方で、学習者用デジタル教科書には他者参照できる機能がないことから、児童が主体的に学びに向かうことができるよう、他のツールの併用について検討する必要がある。

(4) 改善後の取組

- ・小中連携において作成している「ICTスキル系統表」を用いて、1人1台端末の活用方法や学習者用デジタル教科書の効果的な活用について共通理解を図る。
- ・協働的な学びが促進されるよう、クラウド上で児童一人一人の考えが共有できるツールも活用するなど、学習環境を整える。

3 実践のポイント

- ・学習者用デジタル教科書のスタンプや付箋等の様々な機能を活用し、児童が教材と向き合うことができるようにしたこと
- ・学習者用デジタル教科書に書き表した自身の考えを基に、互いの考えを伝え合う場面を設定したこと

デジタル教科書の効果的な活用

室蘭市立旭ヶ丘小学校 学級数 22 (校長 大谷 昌史)

□ 実践の概要

本校は、「児童が生き生きと学び、自ら学ぶ力を育成するための授業実践～個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実～」を研究テーマとし、授業改革に取り組んでいる。その中で、デジタル教科書を含むICTの効果的な活用が授業改革には不可欠であるという共通理解の下、日々の授業実践を積み重ねている。

1 実践の目的

デジタル教科書をはじめとするデジタル学習基盤を教員も児童も使えるようにすることにより、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った授業改革につなげる。

2 実践内容

(1) 実施計画

- ① 教員向けICTポータルサイト及び児童用ICTポータルサイトを作成し、教員も児童もすぐにデジタル教科書や他のサイトにアクセスできる教育環境を整える。
- ② 教員向けの任意参加によるICT研修を月1回実施し、ICTが苦手な教員のスキルアップを図る。
- ③ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、デジタル教科書を含むICTを効果的に活用し、授業改善を図る。

(2) 取組の具体

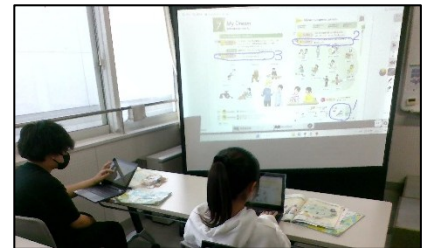
各教科において動画や音源、画像などの教員用デジタル教科書のコンテンツを活用することにより、児童の興味・関心を高めるとともに分かりやすい授業づくりに取り組んだ。また、算数科と外国語科においては、児童用デジタル教科書を活用し、以下の取組を行った。

【算数科における活用例】

- ・児童が実際に図形を操作しながら思考したり説明したりすることで数学的活動の充実を図った。

【外国語科における活用例】

- ・児童が必要に応じて繰り返し英語の発音を確認できるようにするなど、個々のペースで学習できるようにした。
- ・パフォーマンステストの例を動画で確認させることにより、単元の目指すゴールを児童と共有したり、欠席が多い児童や別室で学習している児童への学習支援へつなげたりした。



【デジタル教科書を活用した授業の様子】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

デジタル教科書をはじめとするデジタル学習基盤を活用したり、ICTポータルサイトを作成したりしたことにより、児童が学習方法を選択したり個々のペースで学習したりできるようにするなど、個別最適な学びにつなげることができた。また、デジタル学習基盤を活用し、個人の考えを瞬時に全体で共有したり、他者参照が容易にできるようにしたりしたことにより、児童の個人思考の深まりや協働的な学びを充実させる基盤づくりにつなげることができた。今後も個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るため、デジタルのよさとアナログのよさを組み合わせた授業づくりを推進する必要がある。

(4) 改善後の取組

教員・児童がデジタル学習基盤をより活用しやすくするためポータルサイト等を改善するなど、教育環境の整備に継続的に取り組むとともに、児童と教員の情報活用能力の向上に向けた取組を推進する。

3 実践のポイント

- ・デジタル教科書を他のデジタル学習基盤と組み合わせて活用したこと
- ・教員・児童が必要な情報にすぐにアクセスできる教育環境を整えたこと
- ・欠席が多い児童や別室登校の児童に対する学習支援の充実につなげたこと

算数科における「自ら学びとる子ども」を育成するためのデジタル教科書等を活用した授業改善

標茶町立標茶小学校 学級数 14 (校長 辻川 智宏)

□ 実践の概要

本校は、重点目標「自ら学びとる子ども」の育成に向けて、各教科等において、児童がデジタル教科書等を効果的・主体的に活用することにより、主体的・対話的で深い学びを実現することができるよう、児童の「探究の過程」を踏まえた単元及び1単位時間の授業づくりを行っている。

1 実践の目的

本校で設定した「探究の過程」において、デジタル教科書等をはじめとするICT機器を効果的に活用することにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、「自ら学びとる子ども」を育成する。

2 実践内容

(1) 実施計画

「子どもが自ら学びとっている姿」とは、「探究の過程」を自立的・協働的に推進できる姿であり、具体的には、右の表に例示した姿と定義し、探究の各過程において、学習者用デジタル教科書等及び学習支援ソフトの積極的な活用を図り、その効果を検証する。

課題の設定	○ 問いを見だし、課題を設定する力 (ICT)
情報の収集	○ 課題の解決のために、多様な方法で情報を収集する力 (ICT)
整理・分析	○ 課題の解決のために、適切な観点等を基に、情報を整理・分析する力 (ICT)
まとめ・表現	○ 課題の解決のために、情報を再構成し適切な方法でまとめ表現する力 (ICT)

【各過程における目指す児童の姿】

(2) 取組の具体

算数科の学習者用デジタル教科書等及び学習支援ソフトを活用した実践の一部を、探究の過程ごとに示す。

探究の過程	① 第5学年「偶数と奇数、倍数と約数」	② 第5学年「平行四辺形と三角形の面積」
「課題の設定」	合同な正方形をしきつめるとき、長方形のたて、横の長さとの関係は、どのような関係があるのだろうか	台形の面積の求め方を考え、面積を求める公式を導き出そう
「情報の収集」 「整理・分析」		

児童は、課題解決に向け、学習者用デジタル教科書等のシミュレーション機能を活用して試行錯誤するとともに、学習支援ソフトの活用により考えを共有して他者からヒントを得たり（「情報の収集」、考えの共通点や規則性等を見いだしたり（「整理・分析」）した。

また、「まとめ・表現」の過程において、児童は、課題解決した結果や過程を振り返り、自身が書き込んだ画面を見せながら教師に説明したり、児童同士で説明し合ったりした。



【「まとめ・表現」における児童の様子】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

デジタル教科書及び学習支援ソフト等の活用により、児童が「情報の収集」の過程において粘り強く思考・表現したり、「整理・分析」「まとめ・表現」の過程において進んで協働して思考・表現し合ったりする姿が見られるなど、学びを自立的・協働的に推進し、「自ら学びとる子ども」の育成に繋げることができた。

(4) 改善後の取組

デジタル教科書等を活用することができる特に効果的な領域や指導場面について検討し、年間指導計画に活用場面を明記するとともに、児童が思考・表現した成果の記録等を次年度に引き継ぐ。

3 実践のポイント

児童がICT機器を用いて試行錯誤し、粘り強く挑戦する姿や他者の表現に触れて考えを広げ・深める姿を教師が見とり、価値付けることにより、児童がICT機器を用いた学びに手応えを感じ、自信をもって学べるようになったこと